



鹿児島純心女子大学
 附属図書館報
 第12号(No.12)
 編集:図書館運営委員会
 発行日:2023.3.14

特集 多様性がもたらすもの

図書館報名「*VERITAS vos liberabit*」は、ラテン語で「真理はあなたたちを自由にする」(新約聖書ヨハネ福音書8章32節)という意味です。

■巻頭言

図書館長 教授 仙波 玲子

2022(令和4)年4月に図書館長を拝命してから「Withコロナ」下の一年間、図書館の運営を内側から学び、大学図書館のこれからを考えてきました。2023年は新型コロナにまつわる制限が緩和され、大学も男女共学化により新しい時代を迎えます。不特定多数が利用する大学図書館では、これまで同様の感染症防止対策を当分続ける必要があるものの、「ポストコロナ(コロナ後)」を睨んだ新しい大学図書館作りを始めなければなりません。目下、テーマとして掲げているのが、「来館型/非来館型のハイブリッド図書館」の基礎構築です。新型コロナ発生以前から、インターネットや電子媒体の普及で、図書館に行かなくても調べ物や読書ができる時代になりつつありました。けれども、図書館は来館が基本で、訪れてもらおうとさまざまな企画を行い、本を選びやすいように図書館のレイアウトを工夫し、じっくり勉強や読書ができるように居心地の良い空間を作ろうと、スタッフは努めてきました。ところが、新型コロナ禍によって、入館を制限せざるを得ず、図書館の役割を十分に果たせないという状況が生まれました。来館しなくても利用できるシステムが必要になりました。そこで、電子書籍に加え、新たに電子ジャーナルを導入し、来館することなく本を借り、読むことができる「電子図書館」を始めることにしました。利用開始に向けてただ今準備中です。まだ蔵書数は少ないですが、活用してぜひ意見感想を寄せてください。

とは言え、図書館は来館が基本というのは変わりません。落ち着いて勉強や読書に取り組める場所、新しい知的出会いを果たせる場所、時には何もせず息抜きする場所、大学図書館という空間とそこで過ごす時間は学生生活に欠かせないもの

のです。本学の図書館には、学習や研究に必要な資料だけでなく、気軽に読める本やDVDなどもあります。閲覧室以外にも資格試験対策室、グループ学習室、CD/DVD視聴室があり、大学の特徴であるキリスト教関係資料室、学園創立者江角ヤス先生の生涯と学園の歴史を知れる展示室に加え、ちょっと息抜きできるような憩いの空間もあります。時間があるから図書館に行ってみるかといった気楽な気持ちで良いので、ぜひ足を運んでください。

昨年秋、三年振りに開催した「選書ツアー」にはじめて参加しました。学生希望者と図書館スタッフが鹿児島市内の書店に赴き、その場で本を選んで購入するという企画です。気になる本があるとそのコーナーで足が止まってしまう私を尻目に、参加した学生は、あらかじめ用意して来た購入希望図書のリストを手に、限られた時間内で一冊でも多くの本を選ぼうと書店を動き回っていました。その生き生きとした姿を見てみると、こちらも気持ちが高まりました。書店でひとりゆっくり本を探すのが当たり前の私にとって、図書館の本選びという目的のために学生と時を共有する楽しさは新鮮で味わい深いものでした。「選書ツアー」や本紙の図書レビューなどで、これまでも学生の協力を仰いできましたが、学生にはもっと自発的に若い感性や実行力を発揮して図書館の活動に関わってもらえたらと考えます。図書館運営もハイブリッドで。多様な視点とアイデアを取り入れ、ポストコロナ時代にふさわしい大学図書館を目指して、これからの一年間試行錯誤しようと思います。

本好き集まれ!!



contents

巻頭言	1
図書館長 仙波 玲子	
多様性と距離	2
(看護2)東郷 帆花	
Book Review	2
Christopher A Medina 牟田 京子 真邊 久美	
(健栄2)取達 杏菜 (教・心3)赤岩 祐佳 (大学院)高梨 修	
うれしいおしらせ	7
クラスマッチ 貸出冊数編	
お知らせ 編集後記	8

多様性との距離

看護学科 2年 東郷 帆花

今回、「多様性」について考えるにあたり、1つ質問があります。皆さんは「胎内記憶」をご存知でしょうか。「胎内記憶」とは、2〜3歳まで子供が、産まれてくる前のことを話す現象を指します。この「胎内記憶」と「多様性」がどのように関係しているのか、私の考えをお伝えしようと思います。

先日、ある助産師の方の講演会に参加しました。先生は、1冊の本を私達に紹介して下さいました。「うまれるまえにき一めた!」という本です。この本は、胎内記憶のある子100人の話を元に作成されたものです。なかでも私が最も印象に残ったのは、様々な才能の玉を赤ちゃん自身が選ぶ場面でした。才能と聞くと、なにが特別なことを思い浮かべるかと思えます。私もそうでした。しかし、そこに書かれた才能は「笑顔が可愛い」「大食い」「耳がいい」など、言ってしまうと当たり前と思われるものばかりでした。これこそ、今で言う「多様性」ではないかと考えました。

近年、多様性という概念が広く浸透してきました。メディアはそれを大きく取り上げ、私た

ちはどこか「特別なもの」として捉えてしまっているかもしれません。多様性とは「ある集団の中に異なる特徴・特性を持つものが存在する」という意味があります。この異なる特徴・特性は、なにも特別でなくていいのではないかと、この場面から思うところでした。今回の講演会では、産まれてくる前に自分で選んだ才能を互いに認め合うことで、自分らしさを武器に輝く事が出来るということを学びました。よく言われる「多様性の尊重」は少し難しいように感じる方も多いと思います。ですが、自分達が選んできた才能を認め合うことも立派な尊重です。難しく考えることはありません。

今一度、隣に座っている方の「その人らしさ」を見つけてみましょう。きっと、思い思いに選んできた素敵なその人らしさに出会い、新たな視点や豊かさの拡大に繋がることと思えます。

『うまれるまえにき一めた!』のぶみ著
サンマーク出版、2019年
ISBN: 9784763137500

Book Review

先生方にお薦めの本を紹介していただきました

This is a wonderful book because it brings the true Gospel of Jesus to light. We have perceived God as arbitrary, cold, unloving and wicked. But He is not. He is love. He wants to restore man back to Himself. God is healing the mind by ennobling the reason, cleansing the conscience, strengthening the will, purifying the thoughts, and regaining control of the feelings.

His methods of openness, truth, love, and freedom result in the restoration of His image within us, the strengthening of reason, the cleansing of the conscience, the development of self-governance, and an increase in liberty and autonomy.

Indeed, it is this simple because He does it all! We only have to avail ourselves and allow Him because He obeys the law of liberty. God would not use coercion, but love. Accept His love today and be restored!

The first time I read this book I was totally blown away. I ended up reading it ten more times consecutively. Each time I gained a new and deeper insight on the God who loves me. I cannot recommend this book more highly than any other book I've ever read outside of the Bible itself.

Department of Education and Psychology
Associate professor Christopher A. Medina



『南と北の子どもたち』
楠原彰著 (亜紀書房)

図書館所在
大学1F和書 367.6 KU

皆さんは「多様性」と聞いたときに何を思い浮かべるでしょうか。私は大正時代に生きた童謡詩人である金子みすゞさんの詩が思い浮かびます。金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」は、小学校の国語の教科書にも採用されていますね。この一節、「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい」というフレーズは多様性を象徴するフレーズとして使用されています。

私は、地域で外国人の支援活動を13年に渡り行っており、鹿児島から一歩もでることなく50カ国以上の方々と出会ってきました。この経験を軸に私が大切にしていることは「正誤ではなく相違」という考え方です。自分の持っている価値観や常識は、家族や地域、日本社会の影響を受け、形成されてきたものです。国が違えば常識も異なります。当たり前と言えば当たり前

なのですが、つい忘れてしまいがちです。自分と違うからと言って「間違っている」と決めつけ、偏見をもつことは、多様性を阻害してしまいます。お互いに違うことを前提として、理解しあうために「対話」することこそが多様性の実現に必要なことであると感じます。

今回、みなさんに1冊の本をご紹介します。楠原彰著「南と北の子どもたち」です。本書の中で楠原先生は新入生(大学)に対し「4年間でたった1つのことができたらい。 (中略) 均質化されていない、異質な経験をした人間たちの交わりの中でこそ、はじめて自分の中に眠っている力に気づかされるとおもいます。だからこそ、うんと体をつかって、いろんな人と出会って頂きたいと思っています。」と語られています。同質化の中にいることはとても心地よく、安心することでしょう。しかし、今まで経験したことのない異質な世界に一步踏み出すことで新たな自分を発見することもあるはずです。人と出会うことが難しい今の時代だからこそ、本を読むことで自分とは違う考えに出会ってみてはいかがでしょうか。

看護学科 助教 牟田京子



Could It Be This Simple?: A Biblical Model for Healing the Mind
By Timothy R. Jennings, Autumn House Publishing (January 1, 2007)
ISBN: 9780812704358

この本は、イエスの真の福音を明るみに出すという点で、素晴らしい本です。私たちは、神を独断的で、冷たく、愛のない、邪悪な存在として認識してきました。しかし、神はそうではありません。神は愛です。人間をご自分のもとに戻したいと願っておられます。神は、理性を高め、良心を清め、意志を強め、思考を清め、感情のコントロールを取り戻すことによって、心を癒しておられます。

開放、真理、愛、自由という神の方法は、私たちの中に神のイメージを回復させ、理性を強化し、良心を清め、自己統治を発達させ、自由と自律性を増大をもたらします。

実際、主がすべてを行ってくださるので、これほど単純なことはありません。神は自由の法則に従うので、私たちはただ自分自身を役立て、神を許せばいいのです。神は強制を用いず、愛を用いられます。今日、彼の愛を受け入れて、回復してください。

初めてこの本を読んだとき、私は完全に圧倒されました。結局、10回以上続けて読みました。そのたびに、私を愛してくださる神について、新たな深い洞察を得ることができました。この本は、私が今まで読んだ聖書以外のどんな本よりも、強くお勧めすることができます。

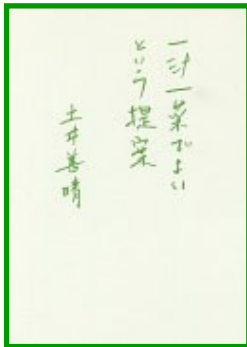
教育・心理学科 准教授 クリストファー・A・メディーナ





Book Review

先生方にお薦めの本を紹介していただきました



『一汁一菜でよいという提案』
土井善晴著（グラフィック社）

図書館所在 大学1F和書 596 D0



私の1冊として、土井善晴さんの「一汁一菜でよいという提案」をご紹介します。土井さんは料理研究家です。料理番組で拝見すると、アシスタントの方と軽快な関西弁で、楽しく料理をする姿が印象的で自宅にある食材で手軽にできる料理を紹介されます。

私が病院勤務の新人管理栄養士の頃の話です。先輩の栄養指導を見学中、「ご飯とお味噌汁があれば十分。ご飯とお味噌汁を作ることはできますか？」と一人暮らしの年配の男性に伝えました。駆け出しの頃の私は、栄養とは…バランスよく食べるには一汁三菜…と教科書通りに学んできたことを伝えなければと思っていたため、大変な驚きでした。指導は「豚汁のように、具沢山の汁物は主菜にも副菜にもなる。そこにご飯を添えることでバランス食になる。」と続けました。確かに小学校の家庭科授業で最初に習うのはこの2品。日本人にとって欠かせない料理であり、大方の人が作ることができます。一汁三菜を毎日継続するこ

とは困難ですが、一汁一菜ならできる！食は日常、そこを踏まえての指導だったことに気づき納得しました。私自身も管理栄養士として、理想的な食生活をしなければならないと思い込んでいましたが、栄養指導の見学後は、ガチガチに凝り固まっていた考えと心がふっと軽くなりました。この本のタイトルを見た時、栄養指導見学の様子が蘇りました。そしてこの本は、『お料理を作るのがたいへんと感じている人に読んで欲しいのです。』と始まります。読み終えて、あの時の感覚を再度味わいました。またお味噌汁・スープレシピも多数掲載されています。料理上手とは技術のみの話ではなく、丁寧に食と向き合うことです。ご飯と汁物をきちんとセッティングする、忙しい毎日の中にも少しだけ食に心配りができることで、より素敵な日々につながっていきます。気になった方は、ぜひ手に取ってみてください。きっと食への新たな扉が開く感覚を感じ取れると思います。

健康栄養学科 講師 真邊 久美



Book Review

学生さんにお薦めの本を紹介していただきました



『島はぼくらと』
辻村深月著（講談社）

図書館所在
大学1F和書 913.6 TS

最近、辻村深月さんの作品で『かがみの孤城』が映画化されて観た人もいないのでしょうか。『かがみの孤城』も凄く良い作品なのですが、辻村深月さんの作品で他にも一度は読んでほしい本があります。それは『島はぼくらと』という作品です。高校の入試問題でも使われた作品でもあります。

『島はぼくらと』は、瀬戸内海にある冴島で暮らす4人の高校生が中心のお話です。島には高校がないため4人はフェリーに乗り本土の高校に通っています。4人のほかにも母親や祖母、Iターン青年など様々な思いを抱える人物がたくさん登場します。「幻の脚本」の謎、未婚の母の涙、Iターン青

年の後悔、島を背負う大人たちの覚悟、そして自らの淡い恋心。故郷を巣立つ前に知った大切なことなどすべてが詰まっている作品です。

この作品を読んで、初めに不便さ・村社会・人口減少など、とにかくネガティブなイメージが多いなと感じた離島生活だと思いました。しかし、読み進めていくうちに、一つ一つの出来事に意味があり登場人物一人一人の話が主人公になっていて、離島生活も今の私の生活とは異なる新しい刺激がありました。最後は最初にあったネガティブなイメージは全く感じることなく読み終えることができました。また、作品の中に出てくる周囲の風景がすぐにイメージできる文章が多く、すぐリアルに感じることができました。ラストの明るい伏線回収ですっきりできると同時に、心温まるとてもいい作品なのでぜひ隙間時間などを見つけて一度手に取って読んでほしいです。

健康栄養学科2年 取達杏菜



『自分も相手も幸せになる
最高の気遣い』
中川奈美著
（自由国民社）

図書館所在
大学1F和書 673.1 NA

この本は、国際線客室乗務員を務め、現在は接客コンサルタント、AIQQL代表である中川奈美さんの実体験に基づいて、接客、接遇の素晴らしさや魅力、アドバイスなどがたくさん書かれている本である。今回の図書館報のテーマである多様性から、私は、日本のおもてなしの観点から多様性について考えてみたいと思い、この本を選んだ。私はこの本を読み、様々なことを学ぶことができ、また自分の心の中に残ることがいくつかあった。その中でも、1番印象に残ったことは、自分を大切にすることが、お客様やお相手の方への良いおもてなし、接客につながるということである。例えば、自分の心に余裕がない時にはお客様にもそれ

が伝わったり、視野が狭くなり普段気付けることにも気付かず、お客様へのおもてなしがおろそかになってしまったりすることを学んだ。また、私たち一人一人は、みんな異なった様々な個性を持っており、それが多様性とも言えることを知った。また、自分自身の個性をポジティブに捉えることもとても大切であることを学んだ。例えば、「せっかちである」言うのではなく、「スピーディなことが好き、迅速性がある」と表現することで個性の印象が変わるそうだ。これらのことから、私は、一人一人が持つ個性を大事にし、その個性を活かしておもてなしを行うことで、もっと多様性が広がり、お客様の様々なニーズにも応えることができるのではないかと考えた。

最後に、この本を読み、私も自分と向き合い、自分の持っている個性は何かをポジティブに考え表現してみたいと考えた。そして、それらの個性を活かして、自分や自分と関わる人々を大切にしながら働くことのできる社会人を目指したい。また、多様性が広がる社会の中で、柔軟に生きていけるような人間になりたい。

教育・心理学科3年 赤岩 祐佳

奄美群島日本復帰70周年に寄せて

鹿児島県は、世界自然遺産が二つある日本で唯一の都道府県だ。その一つが所在する奄美群島は、戦後、米軍占領統治下に置かれて、1953年（昭和28年）12月25日に日本に返還されたという歴史がある（令和時代の日本史教科書には記載有）。今年2023年（令和5年）は、奄美群島日本復帰の70周年に当たる。

奄美群島が日本に復帰してから間もない1955年（昭和30年）、作家の島尾敏雄が奄美大島の名瀬に移住してきた。やがて「鹿児島県立図書館奄美分館」の館長となり、20年を奄美大島で過ごした。名瀬の街で、代表作『死の棘』や『出発は遂に訪れず』が執筆された。

島尾がなぜ奄美大島にやってきたのかは、究極の恋愛文学作品とも言われる『死の棘』を、そして戦争文学という新しいジャンルを確立した『出発は遂に訪れず』等を読んでいただければご理解いただけるから、ここではネタバレしないようにしておきたい。

1975年（昭和50年）、島尾は、鹿児島県立図書館奄美分館長を退職し、鹿児島純心女子短期大学の教授兼図書館長となった。島尾敏雄といえば、ノーベル文学賞の受賞も期待されていた世界的に著名な作家である。そういう作家が、本学園の教職員として勤務していたところに、鹿児島純心女子学園の学識深い学風の一端がうかがわれるようにも思われる。

作家・島尾敏雄については、多数の研究成果が蓄積されているのであるが、意外にも本学園勤務時代の様子については、あまり知られていない。島尾の同僚として短大の生活学科で教鞭をとられていた三島盛武先生（鹿児島純心女子短期大学名誉教授）が、2022年（令和4年）9月に『身近に見た島尾敏雄先生』と題したアンソロジーを上梓された。

三島先生は、島尾敏雄の生涯において、同僚として身近にいた唯一の文学者研究者であった。その三島先生により、純心学園時代の「身近に見た」島尾敏雄の足跡が明らかにされている。三島先生の慧眼により選別された「純大講座・島尾先生講演録」4編は、特攻隊経験、南島文学論、ヤポネシア論という島尾と奄美の関わりの核心に触れることができる初公開のもので、島尾を知らないみなさんにはぜひ読んでいただきたい部分である。

奥様の島尾ミホ氏は、生前、作家・島尾敏雄のイメージを崩さないようにと、笑顔の写真の使用をほとんど許可されなかった。本書には笑顔の島尾敏雄の写真がいくつも掲載されていて、純心学園を愛し、活躍した晩年の島尾敏雄の思想、姿をたどることができる。

大学院1年 高梨 修



『身近に見た島尾敏雄先生』

三島盛武著（時代屋書房）

図書館所在
大学1F和書 910.268 SH



うれしい おしらせ

『泣くな研修医』で
お馴染みの医師、
中山祐次郎先生から、
なんと！！
学生さんへのエールを
いただきました。



監修
中山祐次郎

学生さん、
ガンバレ！

2023.1.27



中山先生の著書、所蔵しています！

『泣くな研修医』『逃げるな新人外科医』
『走れ外科医』『やめるな外科医』
『医者の本音』『がん外科医の本音』
『ズボラな学生の看護実習本 ずぼかん』
『看護師のための多職種連携攻略本』 などなど…



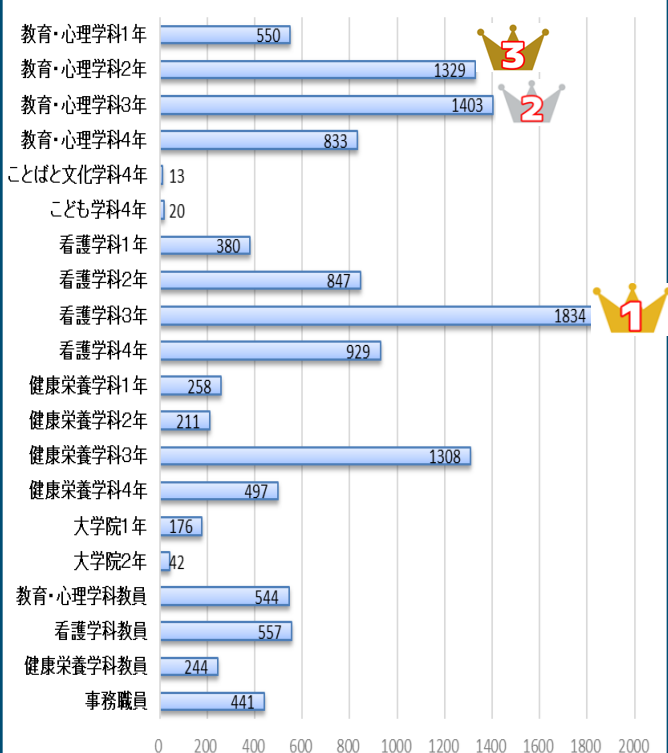
クラスマッチしてみました

貸出冊数編

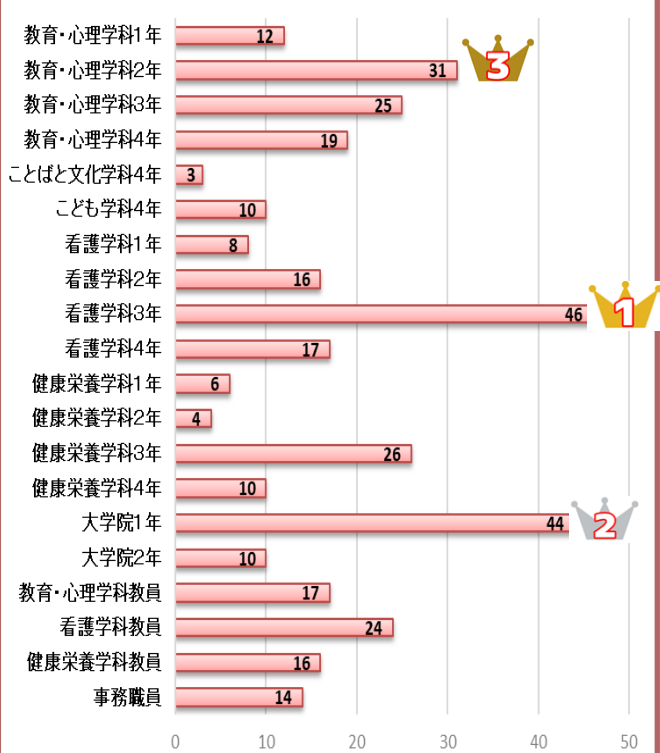
2022.4.1 ~ 2023.2.28

優勝は看護学科3年生です
おめでとうございます！

貸出冊数



一人当たりの貸出冊数



お知らせ

◆電子書籍もあります！◆

使い方がわからないときは、
図書館員へお尋ねください。

紀伊國屋書店 KinoDen



Maruzen EBook Library



電子図書館 LibrariE



古本募金のご報告



古本募金を開始して6年目となりました。
今年も沢山の本を寄付していただきありがとうございました。
いただいた古本は換金され「純心未来基金」へ積み立てられ、学園の教育・研究のために役立てられます。これからも宜しくお願いします。

2022年度 寄付金額合計	27,096円
(内訳)	
大学の除籍本・回収ボックス	24,864円
卒業生・保護者・旧職員ほか	1,732円
きしゃぽん（嵯峨野株式会社）	500円

卒業後も利用できます

在学時より利用制限はありますが、貸出も可能です。ご利用下さい。（*貸出冊数5冊、貸出期間2週間）
大学に来られたら、まず大学の受付で入館の手続きを行って下さい。その後、図書館へお越しください。
皆様のご利用をお待ちしています。ただし、新型コロナウイルスが終息するまでは利用できません。ご了承下さい。

編集後記

今号のテーマは「多様性がもたらすもの」です。多様性は、私にとっては、本当に当たり前すぎて、“普通”の方々がどのように多様性を考えているのかわかりませんでした。たとえば、多様性は「特別なもの」とか、「ある集団の中に異なる特徴・特性を持つものが存在すること、という考えです。

私がいつも不思議に思うのは、マジョリティ側にいると自分自身で思っている人は何を根拠に自分自身はマジョリティだと考えているのだろうということです。なぜか気が付くとマイノリティになっている私にとっては“永遠の謎”です。

“常識”や“人として当たり前”ということに“普通”の方々が疑問をもつことが多様性を受け入れるということだと思います。その結果、「社会が変わってしまう」でしょう。「多様性がもたらすもの」は、すべての人が生きやすい社会だとおもいます。私は、「早く変わってしまっ」てほしいと願っています。（KM）



鹿児島純心女子大学附属図書館報

VERITAS vos liberabit

No.12

編集・発行：図書館運営委員会

発行日：2023年3月14日

〒895-0011

鹿児島県薩摩川内市天辰町2365番地

TEL：0996-23-5311 / FAX：0996-23-5030

E-mail: ml-veritas@k-jundai.jp